

An outline map of the Aomori Peninsula, showing its coastline and major islands. The map is drawn in a simple line-art style and occupies the left and central portions of the page.

対馬の自然

No. 11

長崎県立対馬高等学校生物部

昭和54年9月発行

発行にあたって

早田謙二

“Tsushmanus”という雑誌は当所、対馬高校生物部紀要として、当時の生物教官を中心に、No.5まで作製されました。これとは別に生物部は、“DNA”という雑誌を作り、No.1, No.2を発行しました。この両者は掲載内容がほぼ同一であったため、1971年からは“Tsushmanus”1本に統合し、対馬高校生物部^誌として昨年で10号の発行を数えています。

対馬高校は、創立70余年を経、本年9月には新校舎落成式を行うことになりました。これを機に部誌もNo.11から名称も新たに“対馬の自然”とし、再出発することにいたしました。昨年は十分な活動ができなかったのですが、今年は“タイワンモンシロチョウがなぜ対馬にいるか”という疑問をたて、この蝶の生態について調べてみました。併せて、対馬の蝶全般についても記しています。対馬は自然環境が他地と異った面がみられます。この好条件を生かし、多くの蝶や植物などの生態を調べ、更に検討して“対馬の自然”を来永く発行できるように今まで以上にがんばりたいと思います。最後に、日頃の部活動で御指導、御協力下さっている諸先生方には、厚く御礼申し上げます。

タイワンモンシロキョウが なぜ対馬にいるか

- (3年) 平間一幸, 内山茂徳
(2年) 扇徹, 早田謙二, 北山陽正, 犬束幸子,
伊原小百合, 岩見直子, 川上由香里,
中庭順子, 杉尚美, 中島佳子
(1年) 歌野啓一, 杉原孝太郎, 国分清

〈研究の動機〉

私達が住む対馬には、ツシマヤマネコ・ツシマムカシジカ・ツシマテンなど、日本国内では本島だけに生息する動物が多数知られています。

生物部では従来より「対馬の動物・植物の研究」を部のメインテーマに設定してきました。しかし動植物には多種多様な種がいますので、中でも特に「対馬の蝶類を研究しよう」ということに限定してきました。

一昨年度は本県の離島産でも非常に大きな地理的変異があることが判ったカラスアケハの変異を調査し、結果は旺文社主催「日本学生学芸コンクール」で全国2位を獲得することができました。昨年度は一昨年の結果を基礎に、さらに対馬全島での調査を継続してきましたので、本年4月当初のミーティングでは本年のテーマをどのようにするか、顧問の先生方も交え全部員で検討しました。

この話し合いで、「対馬にイセ蝶がいるのだらう」

という疑問が出されましたが、誰も答えることができません。そこで更に討論を続けました。「蝶がにいるのには何か原因があるはずである」ということで、対馬で記録がある84種のうち、「日本で対馬にしか生息していない蝶」を上げ、みることにしました。台湾モンシロチョウとツシマウラボシジミの2種がそれに該当したので、前者の蝶を調べることで、蝶が生息する原因の一端でも知ろうと全員の意見が一致しました。

今までに調査したことがある2・3年を中心に改めて討論をしました。対馬には台湾モンシロチョウによく似た種とシマズクグロチョウ、モンシロチョウ、ツマキチョウの3種がいます。これらは本を調べますと朝鮮半島、日本本土に広く分布しているというのに、台湾モンシロチョウだけが対馬にだけ分布しているのはおかしいと全員が考えました。

命題：台湾モンシロチョウが日本では対馬にだけいる(対馬しかいない)のは何か理由がある

今までに続けてきた調査をもとに上記の命題についてさらに話し合いをもち、前述の3種との種間関係をふまえて台湾モンシロチョウを研究することにしました。

